



お客様のケーススタディ

シンガポールのメディア企業がクラウド運用モデルを最新化

シンガポールのメディア企業が、クラウドファーストのデジタルトランスフォーメーションを促進し、HashiCorp Cloud Platformの標準化機能でインフラへのアプローチを最新化しています。

SPH Media 社について

SPH Media 社は、新聞、雑誌、書籍を印刷とデジタルの両方で出版している大手メディアグループです。また、ラジオ局やアウトドアメディアなど、他の事業も幅広く展開しています。同社はシンガポールとアジアで信頼できる情報源とされており、シンガポールを構成するコミュニティを代表し、これを世界と結びつけることを使命としています。



クラウドプラットフォームチーム 20 名が、HashiCorp Cloud Platform を使って 200 名の開発者をサポート



アプリケーションのデプロイにかかる時間を 3 カ月から 2 週間に短縮



シフトレフトアプローチとドリフト検出により、不適切な設定を 95% 削減



所有メディアへのアクセス数はプラットフォーム全体で 1 日あたり最大 3,000 万件



インフラ関連の作業はすべて Terraform に集約し、オープンソースコミュニティ向けに 17 以上のモジュールを公開



数百の AWS アカウントでガバナンスと開発のベストプラクティスを標準化

「この緊密な連携のおかげで、他のプラットフォームと違い、これまで自動化したことがない人でも、Terraform で簡単に自動化を始められるようになりました」

YONG WEN CHUA 氏
プラットフォームエンジニアリング責任者

最新化に向けた取り組み

シンガポールのメディアグループである SPH Media 社は、自社の運用を最新化し、最先端の企業であることを顧客や求職者に対してアピールしたいと考えていました。

そこで、ウェブサイトとアプリケーションのテクノロジスタックをクラウドに移行する計画を立てました。SPH Media 社のエンジニアリングチームは、この最新化によって、AWS リソースの作成や管理などの作業をはじめ、クラウドとオンプレミスのインフラを自動化することを目指しました。開発者が AWS 独自のユーザーインターフェイスを使用、あるいは手動のプロビジョニングを待機することなく、インフラリソースを自由に使える必要があったのです。

また、この最新化は、SPH Media 社の API の使用を自動化するものでもありました。API を活用すれば、チームはエンジニアによる AWS や他のサービスの使用方法を自動化できたのです。これにより、コードレビューや GitHub への変更の追跡など、必要なすべてのサービスを再利用、あるいは複製できるようになります。

標準化によるトランスフォーメーションの促進

SPH Media 社のクラウドインフラの最新化は、ハウスキーピングと技術的負債への投資から始まりました。エンジニアリングチームは、複雑につながり合った仮想プライベートクラウド（VPC）という問題に直面しました。Direct Connect や Transit Gateway 経由で、複数の VPC やオンプレミスのデータセンターが相互に接続されていたのです。

このように大規模に深くつながり合ったネットワークが原因で、SPH Media 社のクラウドインフラは、ネットワークトラフィックに対する可視性が低く、IP アドレスの枯渇に悩まされていました。

このようなアーキテクチャは理想的とは言えず、セキュリティ保護の強化と一貫性のある動的クレデンシャルの管理が求められていました。そこで同社は、すべてのチームでツールを標準化すれば、エンジニアがインシデントを迅速に発見し、簡単に解決できるようになると考えました。

また、技術インフラに加え、これにふさわしい技術を持った人材を惹きつける必要がありました。こうした問題の解決策を見つけ出すことが、最新化を成功させる鍵となったのです。

課題



デジタル戦略を加速するために、新しいモバイルアプリを構築し、古いアプリに変更を加えて最新化する



標準化された開発者向けツールの導入によって、人材を定着させ、開発者をトレーニングし、アクセスを簡素化することによって、開発者がすぐに業務に取り組めるようにする



インフラの自動化によって効率、スピード、ガバナンス、コンプライアンスを向上させる



データベースなどのアプリケーションやサービスに対する動的クレデンシャルの使用を促進し、セキュリティリスクをさらに低減する



印刷メディア中心の会社からデジタルメディア中心の会社へとイメージを転換し、技術を持った人材を惹き付ける

連携と自動化への道を切り開くクラウドプラットフォームチーム

このような課題を克服するために、SPH Media 社は統一したクラウドプラットフォームチームを結成し、メンバーがクラウドの管理やインフラのデプロイに集中できるようにしました。また、ワークストリームを調整し、SPH Media 社のインフラとアプリケーションの最新化に携わる関係者間のコミュニケーションと知識の共有を促進しました。

プラットフォームチームは、クラウドリソースの管理ではなく、アプリケーションチームの強化に注力するようになりました。このマインドセットの転換によって、クラウドは IT チームが管理するものではなく、SPH Media 社のエンジニアと連携したセルフサービスリソースとなったのです。また、プラットフォームチームは、安全なクラウド利用のためのガードレールとポリシーを設定して各開発者の負担を軽減し、セキュリティ体制を完全に変化させました。

「分散化されたセルフサービスモデルの構築にあたっては、組織内の他の人々をトレーニングできる、きわめて有能なチームが必要です」と、プラットフォームエンジニアリング責任者の Yong Wen 氏は語ります。「そこで、クラウドインフラの専門家とクラウドプラットフォームチームを結成してモジュールを作成、検証し、アプリケーション開発者に使用や導入を促せるようにしました」

SPH Media 社のクラウドプラットフォームチームは、HashiCorp Cloud Platform 上に HashiCorp Cloud スイート (Terraform、Packer、Vault、Consul、Boundary) を購入し、HashiCorp のソリューションを使って価値を生み出す柔軟かつ迅速な手段を提供できるようにしました。

このようなマインドセットの転換、新しいクラウドプラットフォームチーム、および HashiCorp のツールのおかげで、SPH Media 社の開発者は、アプリケーションとサービスをこれまでにないほど迅速かつスムーズに稼働させられるようになりました。

HashiCorp Cloud Platform でクラウド運用モデルを標準化

HashiCorp 製品の標準化機能を利用し、ワークフローを標準化および自動化してセキュリティとコンプライアンスに対応することによって、開発戦略とデジタル戦略を加速します。HashiCorp のソリューションアーキテクトは、チームが AWS クラウドインフラの再設計に取り組んでいる間、SPH Media 社にアドバイスを提供しました。

HashiCorp 社のツール群は、AWS Transit Gateway に接続されていない、分離された新しい仮想プライベートクラウドの作成を可能にしました。新しい Consul DataPlane 機能で構築されたサービスメッシュは、透明性を高め、IP アドレス重複の可能性を減らし、ネットワークトラフィックの管理を効率化しました。Terraform は、プロビジョニングを自動化し、同時に Sentinel の Policy as Code で IT 管理者がワークフローの管理を継続できるようにしています。

Vault は、アプリケーションの動的クレデンシャルの管理を実現し、同社のセキュリティ体制を強化しました。またクラウドプラットフォームチームは、将来、社内サービスへのアクセスを提供するための手段として、Boundary を使用することを検討しています。

HashiCorp の標準化機能、自動化、およびリソースのデプロイの連携により、次のことが可能になりました。







- ・ 開発チームが使用するサービスの調達に時間を取られることなく、最初からすぐに作業を開始。
- ・ 運用チーム、セキュリティチーム、ネットワークチームに共通のインフラ基盤を導入し、クラウドインフラの運用を支援。
- ・ 問題の発生時にプラットフォームチームがその発生場所を簡単に特定できるように、セキュリティの可視性を向上。
- ・ プログラムによる ID へのアクセスを可能にし、クレデンシャルの盗難を阻止しながらクラウド内でゼロトラスト環境を構築。

SPH Media 社が HashiCorp ツールを実装すると、HashiCorp のアカウントチームは Terraform のトレーニングワークショップを開催し、SPH Media 社のエンジニアリングチームからの質問に回答するなど、専門家や HashiCorp 製品チームとやり取りできる機会を多数提供しました。

「このコラボレーションのプロセスは画期的なものでした。特に、事前のテストや新製品の機能の実装にあたって HashiCorp と緊密に連携したことにより、最新化のプロセスを確実に進めることができました」と、Yong Wen 氏は述べています。「この緊密な連携のおかげで、他のプラットフォームと違い、これまで自動化したことがない人でも、Terraform で簡単に自動化を始められるようになりました」

HashiCorp の標準化機能により、エンジニアが会社をサポートするミッションクリティカルな業務に割ける時間を増やせるようになりました。また、この最新ツールは求職者にとっても関心の的になり、SPH Media 社がエンジニアリングの人材を惹き付けるのに役立ちました。HashiCorp を使用することで、SPH Media 社はインフラの活用法を改善し、革新的な企業としてのブランド認知度を構築できたのです。

結果

-  アプリケーションのデプロイにかかる時間を 3 カ月から 2 週間に短縮することで、イノベーションを加速し、市場投入までの時間を短縮
-  ワークフローの自動化により、クラウド導入の簡素化と効率化を実現
-  再利用可能なコードでデプロイを簡素化し、規制コンプライアンスへの対応に必要な労力を低減
-  セキュリティ侵害のリスクと、侵害された場合の影響範囲を低減
-  デプロイ基準の自動適用により、セキュリティの不適切な設定の修正にかかる時間を短縮
-  クラウドプロビジョニングとセキュリティのツールの統合により、運用コストとビジネスコストを削減

ソリューション

SPH Media 社と同社のクラウドプラットフォームチームは、HashiCorp Cloud スイートを導入し、HashiCorp ツールで最新化プロセスを標準化しました。これにより、SPH Media 社はクラウドリソースの使用で連携モデルに移行し、開発者がセキュリティリスクを低減しながらデプロイを迅速にできるようにしました。また、HashiCorp の導入により、最先端の技術を駆使する組織としてブランドの信用を確立し、新たな人材を惹き付ける最新のアプローチを継続できるようになりました。

SPH Media 社のパートナー



Yong Wen Chua 氏

プラットフォーム

エンジニアリング責任者

Yong Wen 氏は、SPH Media 社のクラウドプラットフォームチームを率いる開発者として、自動化に尽力しています。これまで、Kubernetes、DevOps、クラウドコンピューティング、HashiCorp のツールを利用してきました。また、今も HashiCorp ツールやオープンソースコミュニティに積極的に貢献しています。



George Irwin 氏

エンジニアリング担当

ディレクタ

George 氏は、さまざまな民間や公共のスタートアップで、共同創業者や CTO として技術分野のキャリアを築いてきました。現在は SPH Media 社のエンジニアリング部門の責任者として、SPH Media 社を業界随一のデジタルファーストパブリッシャーにするという目標を達成できるよう、チームの支援に尽力しています。

テクノロジスタック

- インフラ: AWS、Google Cloud、Aliyun、VMware
- ワークロードの種類: Linux、Windows
- コンテナランタイム: コンテナ化
- オーケストレータ: Kubernetes/ECS
- CI/CD: Github Actions、CodePipeline
- バージョン管理: GitHub
- データサービス: S3、EBS
- プロビジョニング: HashiCorp Terraform Cloud
- シークレット管理: HCP Vault、HCP Boundary、AWS Security Hub

